

赤いシミ

「顔や手の甲にできる

赤いシミに気づいたら

皮膚科に行きましよう。

早期の皮膚がんの可能性が

あります！」

赤いシミの種類は

おもに3種類あり、

原因と特徴が異なります

年齢を重ねるとともに増えていくシミ。そのシミのなかで特に、赤いシミは要注意です。

「見た目にはあまり目立ちませんが、実は皮膚がんの初期（日光角化症）の可能性があるので」と赤須玲子先生。右の症状チェックリストは、日光角化症の特徴を表しています。特に、

CHECK !

こんな症状があったら皮膚科へ！
日光角化症(早期皮膚がん)の可能性が…

- 湿疹のように赤くてカサカサしている
- 痛み、かゆみなどはない
- 湿疹の薬をつけても治らない
- 体にはなく、顔や手の甲だけにある
- 触ると表面がザラザラする
- かさぶたがついている
- かさぶたを取ると出血する

ければ治療の必要はありません」

いずれも加齢で起こりやすくなりますが、毛細血管拡張症の原因は、急激な温度差による寒冷刺激、アルコールや刺激物などによる血管拡張が原因。脂漏性角化症は、若いころニキビができてやすくオイリー肌の人に起こりやすい傾向にあります。

気になるのは、早期皮膚がんである日光角化症の原因。

「日光角化症は、屋外スポーツ、農業や漁業の従事者など紫外線に多く当たっている人に発生しやすい病気です。高齢になるほ

POINT !

赤いシミには、おもに3つの病気が考えられます

毛細血管拡張症

加齢によって、毛細血管の収縮機能が悪くなって血管が拡張したままになり、血流量が増加すると、逆に血液の流れが滞る。そこに血液がたまり、透けて赤く見える状態を「毛細血管拡張症」という。また同様に、毛細血管の拡張により中央部が赤く盛り上がり、ここから毛細血管がクモの足のように放射状に伸びているものを「クモ状血管腫」という。



毛細血管拡張症。真皮内の毛細血管が拡張。特に、頬や鼻などに症状が表れやすい。



クモ状血管腫。中央からクモの巣状に毛細血管が広がる。指で圧指すると消えるか離すと戻る。

脂漏性角化症

皮膚の良性腫瘍のひとつで、老人性イボとも言われている。これ自体は、加齢変化で治療の必要はないが、炎症を伴うと赤く見え、かさぶたになることもある。顔、頭、全身のどこにでもできる。色は、普通の皮膚の色、赤みを伴うもの、茶褐色などさまざま。形は、平らなものから、隆起するものまでさまざまあり、なかにはかゆみを伴うこともある。



皮膚に赤みを伴うこともある。イボは、初めは1~2ミリだが、放っておくと大きくなる。

日光角化症

日光角化症は、皮膚がん(悪性)のごく早期の病変。悪性腫瘍の初期状態に血管の変化を伴い、赤いシミのように見える。日光(紫外線)を浴び続けてきたことによって発症する悪性の皮膚疾患。顔、頭部、手の甲に多く発症する。最初は、大きさ1~2センチほどの範囲で、赤くまだら状のシミや湿疹のように見え、表面にカサカサとした角質やかさぶたなどを伴う。



最初は大きさ1~2センチほどで、湿疹のように赤くて、表面がカサカサと乾燥している。



1年後
湿疹のように見えるが自然に治ることはなく、年単位で徐々に隆起し、かさぶたを伴う。

どその頻度は増加し、紫外線で赤く(サンバーン)なりやすく、肌黒く(サンタン)なりにく

いずれの赤いシミにも

日ごろからの

紫外線対策が重要です

3種類の赤いシミ。原因はそれぞれ異なりますが対策はどのようにすればよいでしょうか？
「毛細血管拡張症、脂漏性角化症、日光角化症ともに、一度できてしまったものは自然には治りませんし、セルフケアでも治りません。治療は、皮膚科を受診してください。ただし、予防的ケアとして、紫外線対策(UVケア)は重要です。日ごろからUVAとUVBをカットする

い色白の人に起こりやすいので。18歳までに紫外線対策をしていたかも発症に影響します」

日焼け止めを使うことは予防になります」と赤須先生。

毛細血管拡張症と脂漏性角化症は、皮膚科でどのように治療できますか？

「毛細血管拡張症が隆起して大きくなったら、レーザー治療か手術での切除で治療可能です。脂漏性角化症は、ステロイドの塗り薬と液体窒素による凍結、あるいは手術で治療します。いずれにしても、日光角化症との

見極めが重要です。赤いシミが見られたら、皮膚科をまずは受診してください」

心配な日光角化症の診断と治療は、どのようにするのでしょうか？

「診断は、ダーモスコピーという拡大ルーペを使った検査機器(下記コラム参照)で見ればほぼわかります。治療は、クリムなどの塗り薬と液体窒素による凍結、またはメスで切除するといった外科的治療の大きく3つがあります」(赤須先生)。

日光角化症は皮膚がんの始まりで、がんが表皮内にとどまった状態。この段階なら治すことが可能です。しかし、進行して表皮の基底膜を破ってしまうと扁平上皮がんとなり、治療が大変に。日光角化症のうちに早期発見、治療することが重要です。

TOPICS

日光角化症の見つけ方と進んできた治療法

液体窒素や外用薬で保険治療が可能になっています

赤いシミなど肉眼で判別がつかない皮膚病変の診断は、ダーモスコピー検査を行う。ダーモスコピーは皮膚の表面を10~30倍に拡大する特殊なルーペで見える方法(右記参照)。色素分布だけでなく、細かな血管の様子も観察することができます。日光角化症の治療は、塗り薬としてイミキモド(ベセルナクリーム)が

2011年、健康保険適用に。1日1回 週3回、自分で患部に直接塗る。塗布後、赤み、かさぶた、乾燥、皮膚がフケのように剥けるなどの副反応が起こるが、3~4週間我慢して使うことが大切。また、3個程度までの小さな日光角化症は、液体窒素による凍結療法(健康保険適用)が最も簡単で効果的。

ダーモスコピー検査とは？

ダーモスコピー検査では、肉眼や通常のルーペでは観察できない、皮膚の内部の色素分布や色合いを観察できる。皮膚がんの可能性が認められれば、組織を取って組織診を行う。



機器を直接肌に接触させて10倍~30倍に拡大し、画面に映し出して診る。



日光角化症は、赤いシミがイチゴ状に、ブツブツとまだらに見えるのが特徴。



赤須玲子先生
赤須医院院長

今月の担当医

あかすれいこ●皮膚科、美容皮膚科医。医学博士。東海大学医学部卒業。山梨大学医学部皮膚科ほかを経て現職。確かな臨床経験と美容に精通したきめ細かな診療が定評。専門はシミ、シワ、ニキビ、ホクロ、皮膚がんなど。皮膚科専門医。

DATA

赤須医院

東京都港区六本木7-18-12

シーボンビュービル4F

☎03-5771-2081

http://www.akasu.or.jp